

## 市町村圏域と広域圏域における施設整備水準の比較 (鹿児島県の事例)

一地域コミュニティ施設の変容と利用運営の広域的再編に関する研究 その2—

正会員○山之内 円<sup>2)</sup>同 友清 貴和<sup>1)</sup>同 坪根 政澄<sup>2)</sup>

## 1. はじめに

前稿に引き続いて、本稿では、市町村圏域と広域圏域における施設整備水準の比較を行い、広域的な施設群再編の可能性を探る。

## 2. 施設整備水準の比較

広域圏域を形成することで市町村圏域との施設の整備状況がどのように変化するのか、また広域圏域間で施設の整備状況に特徴がみられるのかを明らかにするため整備指標を用いて分析を行った。

整備指標を導くにあたって整備状況の比較要素として施設の延床面積、各市町村の人口規模を用いた。人口の持つ諸特性は、その地域の社会・経済・自然条件の反映である。同時に、人口規模は施設需要を規定する重要な要素である。そこで、【式-1】に示す算出式により整備指標を導き出した。ここで、Aを鹿児島県全体の整備指標Bで割ることにより、整備指標の1.00を基準として整備状況の分析を行うことができる。

## 【式-1】 (整備指標) = A/B

A…当該市町村または当該広域圏域における延床面積の合計 [㎡]  
／当該市町村または当該広域圏域の人口の合計 [人]  
B…鹿児島県71市町村における延床面積の合計 [㎡]  
／鹿児島県71市町村における人口の合計 [人]

## 3. 広域圏域間の特徴

各広域圏域の整備指標を【表-3】に示す。

A-1, B-1, C-1の広域圏域は人口50万人を超える鹿児島市を含み、他の市町村との人口規模の格差が大きいためそれぞれの施設で整備指標が小さくなっている特殊な例といえる。そこで、この広域圏域を除いてみると生涯学習施設は県内で最も整備の進んでいる施設のひとつであるため広域圏域間の格差は差ほど見られない。また、このほか整備の進んでいる保健施設、福祉施設をみると市町村間の整備状況の格差よりは小さくなったが多少、整備にばらつきがみられる。また、高齢化率の高い地域に整備が行き届いているとは限らない。その他の施設でも全く整備されていないものもみられるが圏域形成のパターンを変えることでそれが解消される例も多くみられる。しかし、どのパターンでも整備状況が0のものも。例えば、牧園町、栗野町などが含まれる広域圏域では図書館の整備がどのパターンでも0となっている。この場合、他の施設での整備指標が高いためそれらの

施設に図書館の機能を付加させることなどが必要と考えられる。

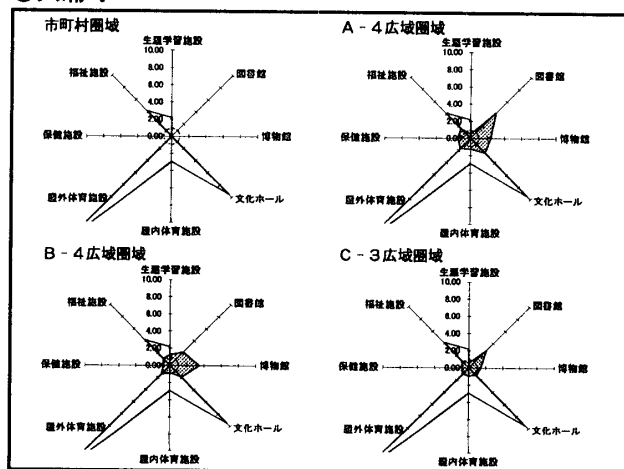
【表-3】各広域圏域の整備指標

広域圏域	生涯学習施設	図書館	博物館	文化ホール	屋内体育施設	屋外体育施設	保健施設	福祉施設
A-1 B-1 C-1	0.34	0.48	1.35	0.43	0.49	1.02	0.41	0.26
A-2 B-2 C-2	1.30	2.23	2.18	0.00	0.83	0.47	2.06	0.78
A-3 B-3	0.66	1.62	0.38	0.00	0.59	0.34	0.00	0.72
C-3	0.58	2.89	1.37	1.19	0.90	1.02	0.73	1.18
A-4	0.50	4.18	2.37	2.40	1.23	1.71	1.48	1.65
A-4	1.26	2.16	3.43	1.94	0.86	1.42	0.76	1.14
B-4	2.07	0.00	4.56	1.44	0.46	1.11	0.00	0.60
A-6	1.48	0.61	0.00	1.41	1.10	0.77	0.99	1.67
B-5	1.17	0.64	0.00	1.05	0.53	1.06	1.46	1.35
B-6	1.71	0.58	0.00	1.66	1.51	0.57	0.65	1.89
A-7 B-7 C-7	1.17	0.96	0.51	0.78	0.87	0.98	0.00	0.51
A-8 B-8	2.36	0.24	1.67	0.55	1.96	0.49	1.51	1.82
C-8	2.27	0.58	1.68	1.34	1.54	1.20	1.38	1.81
C-9	2.41	0.00	1.67	0.00	2.25	0.00	1.61	1.75
A-9 B-9 C-10	1.43	1.17	1.54	0.90	2.35	1.16	1.71	0.44
A-10 B-10 C-11	1.13	2.48	1.43	1.32	1.19	0.88	2.50	1.09
A-11 B-11 C-12	1.32	1.64	0.00	3.11	0.87	0.70	0.00	1.49
A-12 C-13	0.91	1.07	0.19	0.45	0.21	0.37	0.29	0.72
B-12	0.68	1.81	0.00	0.76	0.19	0.00	0.00	0.63
B-13	1.25	0.00	0.47	0.00	0.23	0.89	0.71	0.85
A-13 B-14 C-14	0.88	1.56	0.89	2.43	5.34	0.57	2.95	1.29
A-14	2.33	0.00	0.95	0.00	1.67	0.00	2.05	3.64
A-15	1.76	0.00	0.00	0.00	0.82	2.42	2.60	0.94
B-15 C-15	2.60	0.00	0.51	0.00	1.19	1.12	2.40	2.39
A-16 B-16	2.64	1.15	0.97	3.45	1.28	2.66	2.24	1.23
C-16	4.02	0.00	1.71	4.70	1.60	6.12	0.00	1.27
C-17	1.62	2.00	0.41	2.53	1.05	0.45	3.90	1.21
A-17 B-17 C-18	1.09	2.19	0.00	1.06	1.06	0.59	0.00	0.73
A-18	0.90	0.82	0.18	1.55	0.51	1.03	1.63	0.43
B-18 C-19	0.41	1.22	0.14	1.28	0.39	0.17	0.95	0.23
B-19 C-20	1.91	0.00	0.25	2.10	0.76	2.78	3.64	0.84
A-19 B-20 C-21	4.55	1.58	0.00	2.19	1.22	5.30	1.64	2.50

## 4. 市町村圏域と広域圏域の比較

次に算出した整備指標から市町村圏域と広域圏域形成後の変化の比較、考察を行った。ここでは、大浦町、財部町の市町村圏域とそれらを母体とする広域圏域の特徴について述べる。図中の実線は市町村圏域での整備状況、点線は鹿児島県平均の整備状況、網掛け部分は広域圏域形成後の整備状況を表している。

## ●大浦町



【図-2】大浦町とその広域圏域における施設整備状況

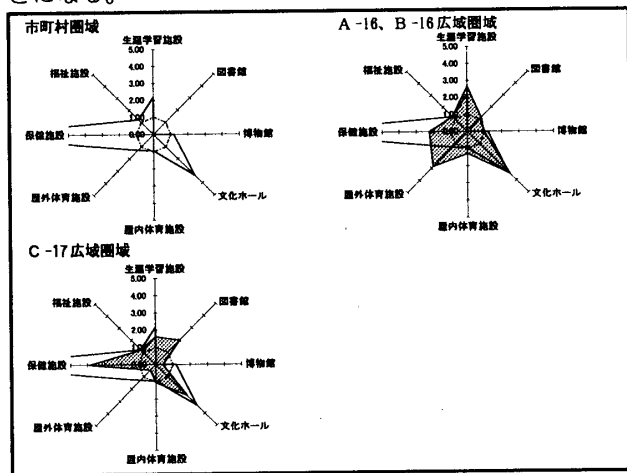
The comparison about preparation standard of public institution area on the municipalities and wide area.(in Kagoshima Prefecture)  
An analysis of transfiguration and a method of reorganization on public institutions in a region Part 2.

Madoka Yamanouchi, Takakazu Tomokiyo, Masazumi Tsubone

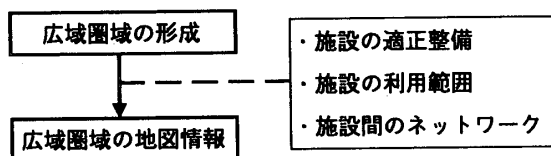
大浦町では整備されている施設と整備の行き届いていない施設の格差が大きい。鹿児島県の中でも特に高齢化率が高く過疎化の進んでいる市町村ではこのような傾向がみられるが広域圏域を形成することで格差は小さくなる。特に整備指標が高い文化ホール、屋外体育施設には広域圏域を形成することで他の市町村からの有効利用が見込まれる。C-3の広域圏域では鹿児島県の中でも比較的人口の多い加世田市、枕崎市と広域圏域を形成し、整備指標がどの施設をみても県の平均的な整備状況になることが伺える。

### ●財部町

財部町では図書館の整備がみられず保健施設の整備指標が特に高くなっている。このような整備状況に格差のみられる市町村では広域圏域を形成することが有効であると考えられる。図書館を見ると同じ広域圏域を形成する末吉町の整備指標が高いためこの市町村の図書館を広域圏域内での利用が有効となる。また、複数市町村での利用を行っても整備指標は県平均を下回らないことが明らかとなった。保健施設をみても広域圏域内の市町村の整備指標がみられないものが多く財部町の施設を提供することで施設の整備が行き届くことになる。



【図-4】財部町とその広域圏域における施設整備状況  
5. 地域コミュニティ施設再編の展望



今後、広域圏域の形成から具体的な広域利用の地図情報として表していく。その中で、施設の適正整備状況を見極める必要がある。必要とされる地域コミュニティ施設は地域の社会条件などにより施設数、施設種類は異なってくる。また、その地域の地理的条件などにより施設の利用範囲も個々で異なってくる。そのため、どれくらいの地域住民の利用が可能か、地域住民の利用範囲がどの程度までかも見極める必要がある。現在、地域コミュニティ施設の必要とされる機能は複合化、高度化の傾向にある。施設によっては施設間でネットワークを形成することで有効に機能するものもある。このようなネットワークや機能が複合化された施設を正確に見極めた施設の再編が必要となってくる。

### 6. まとめ

本稿では市町村圏域の枠を超えて施設の広域化による有効性を探ってきた。現在、鹿児島県は地域コミュニティ施設に関する様々な問題を抱えている。例として、本稿では取り上げなかった温泉施設がある。鹿児島県は全国でも有数の源泉地であり地域特性のひとつでもある。しかし、温泉施設が過剰設置となり運営に行き詰まる施設が少なくない。今後このような施設の過剰設置を避けるためにも施設再編を進めなければならない。

分析の結果、整備のみられない施設や整備指標の低い施設は広域圏域を形成することでその指標が高くなる例や偏った施設整備が広域化により改善される例が多くみられた。また逆に広域化による整備指標の低下もみられた。これは、整備指標の高い市町村が他の市町村と施設の運営、管理を行い、複数市町村による施設の役割分担を明確にすることでより有効的な施設利用の可能性を持つと考えられる。また、広域化による整備指標が高くなるものは、狭い範囲内で類似施設が重複している可能性があると考えられる。この場合、施設機能の複合、転換を視野にいれ対応していかなければならない。

このようにマクロな範囲で再編の可能性を探ってきたが、今後は、施設規模による利用範囲、施設間の距離などを考慮し、より地域住民の視点に立ったミクロな範囲での施設群の再編の可能性を考えていかなければならない。

#### ※参考文献

「鹿児島県統計年鑑」鹿児島県統計課

「広域行政圏に向けての基礎的研究」平成10年度鹿児島大学修士論文

※科学研究費基盤研究(C)(2)課題番号10650610(研究代表者:友清貴和)の助成を受けたものである。

- 1)鹿児島大学教授・工博 Prof.,Dept.of architecture, Faculty of Eng, University of Kagoshima, Dr. Eng.  
2)鹿児島大学大学院 Graduate school, Dept. of architecture, Faculty of Eng, University of Kagoshima.